

Q 符号こぼれ話

JJ1SXA/池

無線局運用規則・別表第 2 号に「Q 符号」というのが定められています、今回はこの「Q 符号」にまつわる面白話題です。

最初に取り上げるのは、「QRJ」です、改正があり、現在は、QRJ? で「そちらの無線電話呼出し申込みは、いくつありますか?」で、応答は「こちらの無線電話呼出し申込みは、……です」となっていますが、改正前には、次のような二つの記述があります。

(国際無線通信・一航規則、無線通信業務用語集・官立無線通信電信講習所による)

Do you receive me badly ?	I cannot receive you
汝ハ我ヲ受信スルニ困難ナリヤ?	我ハ汝ヲ受信シ難シ
Are my signals week?	Your signals are too week
我ノ信号弱キヤ?	汝ノ信号弱キニ過グ

昔の電信用語ですから、和訳がすごい！ (更に翻訳してとは言わないで hi)

次は、「QSD」、これも改正されていて、現在は、QSD? で「こちらの信号は、切れませんか?」「そちらの信号は、切れます」です。

改正前には、「こちらの電鍵操作は不正確ですか?」「そちらの電鍵操作は不正確です」…たいへん耳の痛い Q コードです。

アマチュアが余り使っていませんが、正規の Q 符号「QTO」と「QTP」。

QTO…「そちらは、岸壁(又は港)を離れましたか?」「こちらは、岸壁(又は港)を離れました」ですが、アマチュア的には「出発しましたか?」「出発しました」

QTP…「そちらは、岸壁(又は港)に着くところですか?」「こちらは、岸壁(又は港)に着くところ」ですが、アマチュア的には「現着しましたか?」「現着しました」

240 のモービルでも、現着した時、「QRT」や「QRX」等を使うように気軽に「QTP」と使えば良いが、「QRJ…汝ノ信号弱キニ過グ」とは言われぬように！！

ついでに正規の Q 符号ではありませんが、依然何処かで書いた「QLF」、面白いが、電信マンにとっては厳しい、皮肉っぽい Q コードです。

左足で打つような下手な符号は出さない方が良いでしょう。(昔は縦振れのみですから、右利きの人が左手どころか左足で…というような意味)

和文では「へボカワレ」があります、これも相手からこれを打たれた新米通信士は余計パニックりますね、更に余談、了解の R(・ー・)、感情を込めたつもりで、EN(・ー・)と間を空けて打つと「へタ」になります、また、笑い声の HI も間を空けて HEE と打つと、和文の新米はそのまま「ヌへへ」と受信…これでも可笑しさは伝わるが、むしろ、EEE で「へへへ」の方がましかな? hi、

和文の QSO 中に欧文を打つときは括弧を使いますが、ベテランは、切り替えの括弧など殆ど使いません…微妙な「間」をうまく使っています、CW は奥深い！！